

園田地区会館の現在地に新施設を！

公共施設の再配置について、9月10日の本会議で質問しました。

●園田地域振興センター(園田支所)と園田地区会館の統合施設の設置を、東高校跡地にするのか、東園田地区にするのか、市が検討しています。東園田地域からは、現在地で新施設を建替えて欲しいとの強い声があります。

☆私は、公約したことであり、次のように質問しました。…

猪名川と藻川に囲まれた東園田地区、古来、水害とたたかって暮らしをまもってきたところです。今でも豪雨による猪名川、藻川の水害への警戒と避難訓練に取組み、地元町会や地域団体が園田地区会館を活用して、関西大学の河田恵昭さん、防災専門家の室崎益輝さん、釜石の奇跡といわれ平時から避難訓練を指導してきた群馬大学の片田敏孝さん、堤防の強化など土木工学の今本博健さんと名だたる方々による防災講演会などに取り組んできているのです。



(田村質問) 地域団体が水害などの災害に対する警戒と備えをしており、その中で現在地の園田地区会館の果たしてきた役割を市長はどのように認識しているのか。

(当局答弁)

園田地区会館については、文化教養の向上や防災を含めた普及・啓発活動のほか、様々なコミュニティ活動の場として有効に活用されていると認識しております。

また、当該施設は学校などと合わせて、災害時には避難場所として活用することとなっております。一方で、現行の耐震基準を満たしておらず、また、施設の老朽化が進み、エレベーターも設置されていないなど、今日的な視点からは早期の更新が必要。

(田村質問) 東園田地区では、高齢化していく中で証明コーナーなど身近なサービス窓口は身近な場所に残して欲しいという強い要望があり、防災活動に取り組む上でも園田地区会館の現在地に、ホール機能、コミュニティ機能、身近なサービス機能のある新複合施設が必要ではないか。

(副市長答弁) 「防災機能を備えた地域コミュニティの拠点また、様々な地域活動の拠点としてふさわしい場所を示し、地区全体のご意見を踏まえ、決定したい。また、保健福祉業務や証明コーナーなど行政窓口は、限りある財源や人員の中で機能や利便性の向上を目指し、集約再編に向けて検討を進めている」との答弁でした。



当初、9月末までに成案化するとしていましたが、設置場所については、10月1日時点で、さらに検討をする時間が必要として、**先送り**されています。(田村)

これでいいのか！

中学校の弁当事業は注文数が減るばかり

1. 昨年10月から実施の三校(生徒数は25年4月)

実施月 (生徒数)	日新中 (500人)	大庄中 (440人)	園田中 (787人)
24年10月	5.8	3.7	3.3
24年11月	2.3	1.4	1.1
24年12月	1.8	1.7	0.9
25年1月	1.5	0.7	0.7
25年2月	1.4	1.0	0.9
25年3月	1.7	0.8	0.8
25年4月	1.5	1.6	0.8
25年5月	1.3	1.0	0.9
25年6月	1.0	0.5	0.7
25年7月	1.0	0.5	0.7
25年9月	0.5	0.4	0.4

市教育委員会の利用率の

目標は10%

☆注文弁当とは
1食350円、前日までに注文すると、当日に業者が学校に配達する。
☆市が温蔵庫、冷蔵庫を設置。
☆業者は学校に販売員を配置
翌日の注文受け、弁当の手渡し弁当箱の回収を行う。
★実績は目標を大きく下回っています

2. 今年7月から実施の五校(生徒数は25年4月)

実施月 (生徒数)	成良中 (408人)	中央中 (704人)	大成中 (624人)	武庫中 (382人)	小園中 (832人)
25年7月	4.6	4.1	7.1	3.4	5.0
25年9月	2.3	1.5	4.0	1.0	2.0

3. 注文弁当事業に、平成24年度は518万円、25年度は1534万円(予算)別に、職員の人件費は、24年度1236万円、25年度1353万円です。業者への委託費等、人件費までかけて、注文弁当を続けていいのでしょうか。

こんにちは 日本共産党尼崎市議会議員 2013.10.20

田村征雄 です

東園田町6-15-6 自宅電話 6494-2478 田村征雄事務所 6493-9049
ホームページは「田村征雄」で検索を。「田村征雄ブログ」更新中



田村質問に対する

中学校給食は、学力向上に資する「教育の一環」

→ 教育長の答弁 (2013. 3 月議会)

☆…学校給食法から抜粋…

第一条 この法律は、学校給食が児童及び生徒の心身の健全な発達に資するものであり、かつ、児童及び生徒の食に関する正しい理解と適切な判断力を養う上で重要な役割を果たすものである… (略)

(義務教育諸学校の設置者の任務)

第四条 義務教育諸学校の設置者は、当該義務教育諸学校において学校給食が実施されるように努めなければならない。

←→第四条は、市立中学校においても、設置者の市長の任務を定めたもの／田村＞
全国の公立中学校の82%が給食を実施しているのは、第四条があるからです。

☆給食の実施基準では、すべての生徒が同じ給食を食べる(全員喫食、但しアレルギー対応は別)ことも、給食の一環の要素です。

☆現役世代の定住、転入の促進には、やっぱり中学校給食が必要

15才未満の子ども人口で、平成12年から22年の10年間の推移をみると

尼崎→ 9100人減少

西宮→ 8800人増加

私から西宮市の担当課長に、こども人口が増加した要因を聞くと、「中学校給食はあって普通。大規模マンションなどに現役世代が入居しているが、ローン返済のため、共働きしている世帯には、毎日の弁当づくりに苦労しなくてもいい、そういう評価があると思う」とのことでした。

尼崎でも大規模マンションが建設されつつあります。

しかし、子育て支援制度の充実の有無で、どのまちに住むのか、選択されているものと思います。まちづくりの上からも給食は必要です。

家庭弁当づくりの方も、給食実施にご理解、ご協力を！

近隣市の人口の推移について
(国勢調査結果(各年10月1日現在)による)

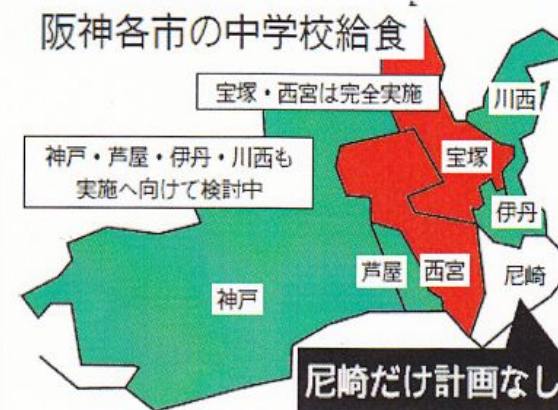
	年齢区分	尼崎市	西宮市
平成12年	15歳未満	63,043	63,208
	15～64歳	326,950	310,132
	65歳以上	75,828	63,782
	合計(不詳含む)	466,187	438,105
平成17年	15歳未満	60,080	68,852
	15～64歳	306,753	315,831
	65歳以上	91,322	78,006
	合計(不詳含む)	462,647	465,337
平成22年	15歳未満	53,922	71,847
	15～64歳	289,125	313,110
	65歳以上	106,070	92,399
	合計(不詳含む)	453,748	482,640

<参考>

		尼崎市	西宮市
H24年	10月1日現在	450,264	484,702

尼崎でも中学校給食の実現を

- ★朝食を食べていない
中学生の割合 2009年
尼崎 7%
全国 3%
 - ★標準体重の1.2倍の
中学生の割合 2011年
尼崎 8.3%
宝塚 4%
- (いずれも尼崎市教委調べ)



尼崎だけ計画もない！



給食は良いことがいっぱい！

- ①住んでいる市による給食のあるなしの格差をなくす。
- ②給食は、すべての子どもの心身の健やかな成長を図る上で有効であり、協同と社会性を養う上で、教育的効果が高い。
- ③家庭の事情で弁当を持ってこられない子どもの心理的な負担をなくす。
- ④子どもの成人病予備軍をなくす。
- ⑤保護者の負担を軽くする。

…など良いことがいっぱい。



西宮市の中学校給食

中学校給食を実施している市の給食費は

1食あたり

☆西宮市→280円

(1960年から実施)

☆宝塚市→260円

(1965年から実施)

署名運動に

ご協力を

新しい議会に向けて、
中学校給食の実施を求める
署名運動が行われています。

みなさんのご協力をお願いします。